

三河十八松平をたどる旅

～徳川の源流と安祥松平分家の史跡～

安祥中学校1年5組 近藤達葵

☆はじめに 旅のはじまり

去年の自由研究では、「酒井家をたどる旅」というテーマで庄内藩を治めた酒井家の歴史について調べました。

その研究の中で酒井家の始祖について調べていくと松平の始祖とされる松平親氏と深い関わりがあるという伝承を知りました。そこで松平家とはどのような一族だったのかもっと詳しく知りたいと思うようになりました。

調べてみると、徳川家康はもともと松平家の出身であり、その家系は現在の安城市に本拠を置いた「安祥松平」につながっていました。さらに三河には安祥松平だけでなく桜井、福釜、藤井、東条、竹谷など多くの松平家が分かれて存在していたこともわかりました。父の故郷である吉良町や普段から身近に感じている安城、岡崎、豊田にも松平家の城や館があったのです。

そこで今回は松平家と三河十八松平について調べるだけでなく、現在残っている城跡、石碑、寺、墓所などを実際に訪ね、自分の目で確かめることにしました。

三河各地に広がった松平家はどのように生まれ、その中から安祥松平家はどのように徳川家へとつながったのでしょうか。

その答えを探すために三河十八松平をたどる旅をはじめました。

◎今回の研究で確かめたいこと

- ・三河に多くの松平家が生まれたのはなぜか。
- ・その中で、安祥松平家はどのように徳川家へとつながったのか。
- ・松平家の史跡は、現在どのように残っているのか。

第1章 松平家とは？

松平家は現在の豊田市松平町にある松平郷で始まったと伝えられています。始祖とされる松平親氏は諸国を巡っていた僧で、松平郷を治めていた家のむことして入り松平太郎左衛門親氏と名乗ったとされています。しかし初期の系図にはいくつかの説があり、松平家の始まりについては全てが確実にわかっていてはいません。それでも松平郷が徳川家康につながる松平氏の発祥地として現在も大切に伝えられています。

諸説あり！

松平家の流れ

松平郷

松平親氏

松平親氏の三男(長男は徳川家康)

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平親氏が松平郷を治めていた家

松平家の流れ



⑥松平郷から三河各地へ

親氏や泰親の後を継いだ松平信光は松平郷の外へ勢力を広げていきました。信光には多くの子がいたとされその子供や子孫が三河各地の城や土地を受け継ぎました。そして住んだ土地の名前を付けて、岩津松平、竹谷松平、形原松平などと呼ばれるようになりました。このように松平一族が各地へ枝分かれしたことが、後の「三河十八松平」につながっていきます。

⑥安祥松平家の誕生

信光の子の一人である親忠は安祥松平初代となり、戦いを通して一族をまとめ、松平家の中で力を強めていきました。その後、長親、信忠、清康へ受け継がれます。

安祥松平家は、最初から松平宗家だっただけではありません。初めは岩津松平家が本来の宗家とされていましたが戦乱の中で岩津家が衰えると、安祥松平家が松平一族の中心的家になりました。

⑥安祥から岡崎、そして家康へ

安祥松平家の松平清康は岡崎を支配下に置き本拠を安祥から岡崎へ移しました。岡崎城を新しい拠点として、さらに三河各地へ勢力を広げていきます。清康の子が松平広忠、その広忠の子が後の徳川家康です。家康は岡崎城で生まれ若い頃は松平元康と名乗っていました。今川氏から独立した後、岡崎城を拠点に三河の統一を進め永禄九年（一五六六年）に徳川へと姓を改めました。

第2章 十八松平とは？

⑥三河各地に広がった松平一族

松平家は松平郷から三河各地へ勢力を広げていく中で、多くの家に分かれていきました。特に松平信光には多くの子がいたと伝えられその子どもや子孫が竹谷、形原、能見、長沢などの土地に入りました。また安祥松平家からも大給、福釜、桜井、東条、藤井などの家が分かれました。それぞれの家には領地や城のあった土地の名前を取り「〇〇松平家」と呼ばれるようになりました。

⑥なぜこれほど分家したのか

当時の武士の家では本家を継ぐ人物だけでなく、他の子供にも土地や城を与え一族の勢力を広げることがありました。信光が親忠の子供達は三河各地を任せ、

第1章のまとめ
松平家は、松平郷に由来する宗家とされ、子孫は「松平」姓を継ぎました。また、松平郷の松平氏の子孫は、松平郷を離れて各地へ移住し、各地で勢力を広げました。松平郷の松平氏は、松平郷を離れて各地へ移住し、各地で勢力を広げました。松平郷の松平氏は、松平郷を離れて各地へ移住し、各地で勢力を広げました。

松平一族略系図



そこを新たな本拠としました。分家を各地に置くことで一族全体の支配地域を広げ、戦いの際には協力することを目指しました。しかし世代が進むとそれぞれの家が独自に行動するようになり、今川につく家、織田につく家、安祥松平に従う家などに分かれました。松平一族同士が争うこともありました。

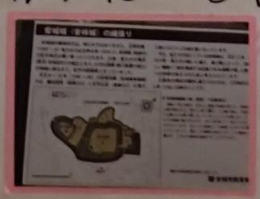
①「十八松平」の十八とは？
 「十八松平」とは徳川家康の時代までに三河各地へ分かれた松平一族をまとめて呼ぶ名称です。ただし、必ず十八家ばかりを指すわけではありません。どの家を含めるかは資料によります。また、「松」の字に「十と八」が含まれることから「十八松平」と呼ばれたという説もあります。調べてみると十八松平は「十八家の確定した名簿」というより三河各地に広がった多くの松平一族を表す呼び名だとわかりました。

②今回の研究ではどう調べたか
 十八松平は資料によって含まれる家が異なるため、今回の研究では使用した松平一族略系図と訪問マップに載っている家を基準にしました。そして現在も城跡、石碑、案内板、寺、墓所などが残る場所、昔は確かに存在したが現在は私有地などになり目印が残っていない場所、今回は訪問できず今後訪ねてみたい場所に分けて整理しました。十八という数も無理にそろえるのではなく、資料に記された松平一族と現在確認できる史跡を調べました。

松平家の足跡は現在の三河にどのように残っているのでしょうか。
 次の章では実際に城跡や石碑、墓所を訪ねた記録をまとめます。

第3章 三河十八松平を訪ねる

三河各地に広がった松平家の史跡を確認するため実際に史跡を訪ねました。調べる前はどの場所にも城跡らしい遺構が残っていると思っていた。しかし実際には公園として整備されている場所、竹やぶの中に石碑だけ残る場所、寺や墓所が歴史を伝えている場所、現在私有地となり何も残っていない場所などさまざまでした。ここでは実際に訪問してわかったことや現地で感じたことをまとめます。



③安祥松平家・安祥城跡
 ・安祥城と安祥松平家
 安祥城は現在の安城市安城町にあったお城です。信光が手に入れ、親忠が城主となり、その後、長忠、信忠、清康の四代が居城としました。この城を拠点として西三河に勢力を広げ一族の中心的家となりました。清康の子が広忠、その子が徳川家康です。つまり安祥松平は後の徳川家につながる重要な家であり城だったのです。

・岡崎へ移、た後の安祥城

清康が本拠を岡崎へ移した後も安祥城は西三河の重要な拠点でした。清康が「守山崩れ」で亡くなると松平一族は弱まり織田と今川の勢力による攻防の舞台となりました。

・現在の安祥城跡

現在、歴史公園として整備され、歴史博物館、市民ギャラリー、埋蔵文化財センターなどが建っています。城跡の地形、博物館の展示などから、かつてここに安祥城があったことが知ることができます。

・実際に訪れてみて

天守や城の建物はなく、見た目だけではここが後の徳川家につながる松平宗家の本拠だったとわかりにくく意外に感じました。しかし展示や城跡の説明を見て、安祥松平の勢力拡大と織田・今川の戦いの舞台になった重要な城だったことが分かりました。今は静かな場所ですがここから清康、広忠、家康へと歴史が繋がっていったと考えると、安城市に残るとても大切な史跡だと感じました。



安祥城本丸跡(大乗寺)にて



安祥城案内板にて



歴史博物館の展示物の前にて



歴史博物館展示



安祥城址公園にて



公園内ののぼりと

☆桜井松平家・桜井城址

①桜井松平とは？

安祥松平二代・長忠の子である信定が桜井に入り初代となりました。信定は力のある武将で安祥松平と宗家の地位を争いました。つまり桜井松平家は最初から安祥松平に従ったわけではありませんでした。

②桜井城その後・実際に訪れてみて

桜井松平家の居城として使われ、徳川家康が関東に移った際、桜井松平家も関東に移り、桜井城は廃城となりました。現在、城跡は城山公園として整備され、石碑や案内板があり、かつてここに桜井城があったことが確認できます。家からとても近い場所に宗家を争った桜井松平家の城があったことにおどろきました。普段から身近な場所にも戦国時代の重要な歴史が残っていることを実感しました。

☆福釜松平家・福釜城跡・宝泉院

①福釜松平家とは？・城跡の現在

初代は安祥松平の松平長親の次男とされる親盛で現在の安城市福釜町、東端町付近を治めました。

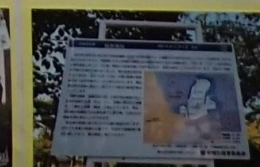
福釜城があったとされる場所は現在は道路や田畑になり、は、まりわかる遺構は残っていません。実際に現地へ行ってみても石碑や案



桜井城址案内板にて



桜井城石碑にて



桜井城址案内板

内板を見つけることはできませんでした。城そのものは残っており、いなかっただですが、近くの菩提寺の宝泉院があり地元では「殿さんのお墓」として知られています。城の姿は失われても寺と墓所が守られていて歴史を伝える大切な役割を持って、このことを学びました。



福金松平五代墓



福金松平・菩提寺の宝泉院



福金松平家のお墓の前にて



松平家のお墓をお参りました。



福金城址の現存の様子
城跡などは残っていない

★東条松平家 - 東条城跡

⑥ 東条城と東条松平

東条城は現在の西尾市吉良町にある丘陵上の城跡です。もともと東条吉良氏の本拠でした。徳川家康が東条城を攻め、吉良氏が降伏した後に松平一族が入り東条松平の本拠となりました。

⑦ 現在の東条城跡・実際に訪れてみて

石碑、案内板などがあり、周囲を見渡せる高台の地形も残っています。小高い丘の上であり、登っていく途中から山城らしい雰囲気があり敵の動きを確認しやすい場所で城が置かれた理由を感じることができました。父の実家が近くにあり、父も子供の頃に遠足で来たことがあると話してくれました。今回同じ場所を父と一緒に訪れたことで、父の思い出と自分の自由研究が重なりました。

★藤井松平・藤井城址

⑧ 現在の藤井城址・訪れてみて

現在の安城市藤井町にあり、現在はお寺の近くに石碑が残っていました。静かな住宅地にあり、ここに城があったと気づきにくい場所でした。



東条城案内板にて



大井戸跡にて



現在に城跡をめぐって

第4章

★その他の松平家・現地調査

① 深溝松平家

現在の額田郡幸田町にあり家康の父於大の方の実家として知られている。

② 形原松平家

現在の蒲郡市形原町にあり小高い丘にあり現在は神社になっっています。

③ 竹谷松平家

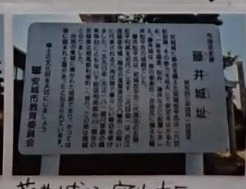
現在の蒲郡市竹谷町にあり、今は住宅地の中にありその一帯だけ竹がふさふさとして奥まで見学できませんでした。

④ 岩津松平家

現在の岡崎市岩津町にあり、現地へ行くと竹がふさふさ多く入口を見つけることができなかつたです。周辺に立っている岩津城跡ののぼり



藤井城址の現在の様子



藤井城址案内板



藤井城址石碑にて

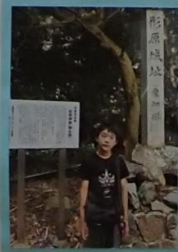
を見つけて写真を撮りました。

⑤ 鶯鴨松平家

現在の豊田市鶯鴨町にあり、現在は田んぼの中に石碑があり周りは田園風景が広がっており当時の雰囲気を感じることができました。



① 深溝城址
石碑前にて



② 形原城址
石碑前にて



③ 形原城跡
古堀横断に於て



④ 竹谷城址石碑



⑤ 岩津城跡に於て



⑥ 鶯鴨城址
石碑前にて

第5章 旅を終えて(まとめ)

今回の自由研究では三河十八松平について本やインターネットで調べただけでなく、実際に各地を訪れて調査しました。

現地歩いてみると城跡が公園として整備されている場所もあれば、石碑だけ残る場所、住宅地や山林になっ、ていて見学が難しい場所もありました。また自治体の公式資料が充実している分家もあれば、ほとんど資料が残っておらず詳しいことがわからない分家もありました。家もありました。

実際に現地へ行ったことで本や写真だけでは分からない地形や周囲の様子、城が築かれた理由などを知ることができました。同じ松平家でもそれぞれの分家が違った歴史を歩んできたことも分かりました。今回調査をして特に驚いたことは自分が住んでいる安城市やその周辺だけでも、これほど多くの史跡が残っているということです。

また父の故郷にも松平家に関係する史跡があり家族と一緒に歴史をたどりながら見学できたこともとても楽しい思い出になりました。

今回の自由研究をしていなければ、おそらく一生訪れることがなかった場所もたくさんあったと思います。実際に現地を訪れ自分の目で史跡を見て歩いた経験は本やインターネットだけでは得られない貴重な体験でした。この旅で見た景色や学んだことはこれから忘れない一生の思い出であり大切な財産になると思います。

今回の自由研究を通して三河十八松平は徳川家康を支えた一族であるだけでなく、それぞれの地域の歴史や文化にも深く関わっていることを学びました。これから機会があれば実際に史跡を訪れ自分の目で確かめながら歴史について学び続けたいと思います。

★参考資料

- ・安城歴史博物館 集「家康と松平一族」
- ・愛知県、安城市、岡崎市、豊田市、蒲郡市、豊川市、幸田町、西尾市、各自治体のホームページ
- ・位置確認のために Google マップ



形原城址から見える風景



家族との旅の思い出①



家族との旅の思い出②